

各位

積水化学工業株式会社

欧州の中間膜原料樹脂生産工場において、再生可能エネルギー100%の電力調達を開始

積水化学工業株式会社(代表取締役社長:加藤 敬太、以下「当社」)の100%子会社で、合わせガラス用中間膜の製造・販売を手掛ける SEKISUI S-LEC B.V. の原料樹脂生産工場(以下「オランダ原料工場」)は、外部から購入する電力を2022年より、すべて再生可能エネルギー(以下、再エネ)に転換しました。



オランダ原料工場の外観

1. 背景・経緯

当社グループは、2030年度までの長期ビジョン「Vision2030」において、「“Innovation for the Earth” サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造します」をビジョンステートメントに掲げ、社会の持続可能性向上と当社グループの利益ある成長の両立を目指す ESG 経営に注力しています。

中でも、重点課題の一つとして捉えている気候変動については、大きな社会課題であると同時に、当社グループにとっての大きなリスクでもあると認識しており、近年取り組みを加速させています。

2021年末日時点で、100%再エネ由来の電力に転換した事業所は国内外に18拠点ありますが、2030年までには、グループ内すべての生産拠点について、外部から購入する電力を100%再エネ由来に転換することを目指しています。

2. 中間膜事業における再エネ転換の取り組みについて

中間膜は、ガラスの貫通・飛散防止や紫外線カットのため、自動車や建築用の合わせガラスに使用されているフィルムです。当社では、そうした基本機能に加え、遮音・遮熱・ヘッドアップディスプレイ対応などの機能を付与した高機能中間膜の開発・販売に注力しており、中間膜事業は当社モビリティ分野の中核事業です。

環境面では、遮音中間膜はガラスの厚みを減らし、自動車の軽量化につながることから燃費・電費向上に貢献し、遮熱中間膜は車内の温度上昇を抑え、エアコン効率を改善することで燃費・電費向上に貢献します。

中間膜事業では、こうした製品軸での環境負荷低減に加え、グローバルに展開する7工場のうち5工場に太陽光発電設備を設置して消費電力の一部を賄うなど、生産拠点においても積極的に脱炭素への取り組みを進めてきました。

3. 購入電力の再エネ100%転換の概要

中間膜事業では、主な顧客であるガラスメーカーや、社会からの要請が強い欧州から脱炭素の取り組みを開始し、グローバルでの調達エネルギーのグリーン化を目指しています。

SEKISUI S-LEC B.V. の生産(製膜)工場がいち早く取り組みを進め、2020年4月に購入電力の再エネ100%調達を実現しており、今回のオランダ原料工場における購入電力の再エネ転換で、同社すべての工場が購入電力の再エネ100%調達を実現することとなりました。

当社グループは、気候変動課題の解決に貢献していくことで大きなリスクを機会に変え、サステナブルな社会の実現を目指すとともに、サステナブルな企業として成長していきます。脱炭素社会の実現を目指し、2030年度までに購入電力を100%再エネに転換し、さらに、2050年度までに事業活動において使用しているコージェネレーション自家発電システムを含むすべてのエネルギーにおいて、温室効果ガス排出量ゼロの達成を目指していきます。

【ご参考】 SEKISUI S-LEC B.V. の概要

所在地：Metaalweg 5, Roermond 6045, The Netherlands

設立：1996年2月

資本金：11,345千ユーロ

代表者：取締役社長 西本 直矢

事業内容：中間膜の製造・販売



本件に関するお問い合わせ

【報道関係の皆様】

積水化学工業株式会社 広報部

Email: kouhou@sekisui.com

【一般のお客様】

同 高機能プラスチックカンパニー 中間膜事業部

お問い合わせフォーム: <https://contact.s-lecfilm.com/ja/Inquiry>

